

第35回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に約2500人

9月18日 国立・千鳥ヶ淵戦没者墓苑



第35回千鳥ヶ淵全戦没者法要のようす

すべての戦争犠牲者を悼み非戦平和の決意を新たにするため、宗派が1981年から毎年営んでいる千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が、9月18日、ご門主ご親修のもと国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑（東京千代田区）で修行され、戦後70年にあたる本年、各地から約2,500人が参拝した。

法要に先立ち、12時45分から宗門関係学校生徒作文の最優秀賞受賞者による作文朗読と表彰式が行われた。

作文朗読を行ったのは、最優秀に選ばれた龍谷大学付属平安中学校3年の船橋維さんの「反戦に対する思い」（中学生

校22作品、高校18校33作品からそれぞれ最優秀作品が選出された。
船橋さん、渡邊さんが作文を朗読すると、会場は参拝者の大きな拍手に包まれた。

続いて聖歌隊による仏教讃歌「みほとけは」「追悼の歌」のコーラスに合わせ、



平和の鐘

各教区の代表と江東学校幼稚園、千代田女学園、武蔵野大学・女子学院、国府台女子学院の生徒代表による献華が行われた。
庭儀の参進中に撞かれる「平和の鐘」がはじめられたのは4年前。仏のみ教えと平和への決意を全国に響かせたいとの願いのもと、全国の寺院にも同時刻に梵鐘を撞くことを呼びかけ、共に恒久平和への願いを新たにしていこうと続けられている。

続いて石上智康総長が「平和宣言」を読みあげた。（全文5頁に掲載）

13時30分からの法要はご門主ご親修にて正信念仏偈（音楽依用）がつとめられた。

国籍、思想、信条を超えてつとめられる本法要には宗門関係者のほか、各国駐日大公使や国会議員らが来賓として参拝した。特に本年は、アメリカ合衆国特命全権大使、キャロライン・ケネディ氏の代理として、マルゴ・キャリントン公使が来賓として参拝するなど、戦後70年に



聖歌隊

の部」と、千代田女学園高等学校1年の渡邊衣織さん（高校の部）の「生きて帰ってきてもごめんさい」。

この作文募集は、次代を担う若者に、本法要の趣旨である平和やいのちの大切さについて考えてもらおうと、宗門関係の全中学、高校に応募を呼びかけ毎年実施している。本年は全国の宗門関係学校より校内選抜を経て寄せられた、中学12



参拝者による焼香

あたり各国の駐日大公使が参拝、焼香した。また東京教区をはじめ全国から団体参拝があり、戦没者を追悼し、非戦平和への思いを新たにするための法要は、本年も多くの人の協力のもと営まれた。

また、法要前日の17日から23日まで、築地本願寺本堂で「非戦平和写真パネル」の展示が浄土真宗本願寺派総合研究所の主催で行われた。

平和宣言

世界中を戦禍に巻き込んだ悲惨な大戦の終結から70年の歳月が経ちました。ここ千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参集されたみなさまと共に、戦争によって犠牲になられた5000万人にも及ぶ国内外すべての方々に、心から哀悼の意を表します。さらに、ご遺族の方々の消えることのない悲しみを、あらためて心に深く刻みます。

世界では今もなお各地で紛争が起こり、戦火の絶えることはありません。つねに世界のどこかで、戦火の火種を宿し続けているのが私たちの世界の実情です。国家や民族が互いに不信を抱き、武力を背景にした緊張の上で保たれる平和は、はたして真の平和のすがたといえるのでしょうか。

戦争は怒りと悲しみを広げるだけの愚かな行為です。誰もがそのことを知りながら、繰り返される争いの連鎖を、私たちはなぜ、断ち切ることができないのでしょうか。

「煩惱成就のわれら」と親鸞聖人が述べられたように、どこまでも根深い欲望と愚かさに根差しているのが人間という存在です。そういう私たちではありますが、阿弥陀如来の智慧の光に照らされて、その愚かさに気づかされるのです。おのれの内なる愚かさに気づかされた私たちは、常に過去の歴史に学び、愚かな過ちを再びおかすことのないよう、また自己本位で排他的なあり方に厳しい批判的な目を持ち、この地上世界に平和が実現するよう努めるべきでありましょう。

縁起の真理に目覚められた釈尊は「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩であれ、安樂であれ」と願っておられます。この世界に存在する命は、私たち凡夫の計らいを超え、縁起によって互いに深く関わり合っているのです。釈尊から2500年隔てた私たちの願いもまた、戦争のない安穩な社会で、皆ともに幸せに生きていくことにあります。この普遍の理想を実現するために、互いに排他的な憎しみの心を克服することに努め、尊い命を奪い合うという愚かな争いをこの地球上からなくすことこそ、皆が共有すべき目標であることを確認いたしましょう。

争いによって、多くの尊い命が失われてきた歴史を、決して無駄にしてはなりません。私たちが目指すべき「自他共に心豊かに生きることのできる社会」とは、誰かを犠牲にして成り立つものではありません。一人ひとりが尊ばれる社会、互いに信頼し合える安穩なる世界に向けて、仏の智慧に教え導かれる念仏者として、これからも、いっそう力強く歩みを進めてゆかねばなりません。

『仏説無量寿経』に説かれた「兵戈無用」という武器なき恒久的な平和への願いを込めて、本日、全国の各寺院から平和の鐘が鳴り響きます。この鐘の響きに込められた平和への願いが、世界中の人びとへ、そして将来を担っていく子どもたちに届いてゆくよう、共に力を合わせてまいりましょう。

2015（平成27）年9月18日

浄土真宗本願寺派

総長 石上智康

宗門関係学校生徒徒作文入賞作

《最優秀作品》

●中学生の部

龍谷大学付属平安中学校3年

船橋 維さん「反戦に対する思い」

●高校生の部

千代田女学園高等学校1年

渡邊衣織さん「生きて帰ってきてい
めんなさ〜」

《優秀作品》

●中学生の部

国府台女子学院中学校

安部綾華さん

京都女子中学校

久木絢加さん

京都女子中学校

松井 薫さん

●高校生の部

双葉高等学校

関 綾 乃さん

京都女子高等学校

土井咲英さん

相愛高等学校

岸田佳那子さん

兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校

神吉花菜子さん

崇徳高等学校

戸田耀介さん

東九州龍谷高等学校

大嶺美里さん